

株式会社アドバンスト・メディアの2025年3月期中間期の決算説明会で報告された内容の要約は以下の通りです。

## ≪ 1. 業績の概況 ≫

### 1. **\*\*決算ハイライト\*\***:

- 売上高 31 億 6,500 万円、営業利益 7 億 400 万円、経常利益 7 億 6,000 万円で過去最高の中間期業績を達成。
- 既存事業（BSR1）のストック売上が順調に積み上がり、全体を牽引。
- 新規ビジネス（BSR2）は売上が横ばいで営業利益は赤字幅を縮小。

### 2. **\*\*損益計算書\*\***:

- 売上原価 24.5%、粗利益率 75.5%。
- 販管費の増加は主に人件費の増加が要因。
- 営業利益は過去最高を記録。
- 配当収入の増加により金融収支が改善し、経常利益も増益。

### 3. **\*\*各事業部の状況\*\***:

#### - **\*\*BSR1\*\***:

- CTI 事業部と VoXT 事業部が売上の中心。
- VoXT 事業部はコロナ以降引き合いが堅調で、売上・利益ともに増加。
- CTI 事業部は大型案件が減少したが、ストック売上が増加し増収増益。
- 医療事業部は 6.5%の増収、30%の増益。
- SDX 事業は売上よりもコストが先行し、利益が減少。

#### - **\*\*BSR2\*\***:

- 海外事業部はクラウドエンジン提供のビジネスが成長し、売上が約倍増。
- BDC 本部はゼネコン向けアプリケーションに特化し、受託開発から撤退。

### 4. **\*\*子会社アミサポの損益\*\***:

- BDC 本部はゼネコン向けのアプリケーションに特化し、受託開発から撤退する方針。
- 売上は減少しているが、ストック型の収益構造を構築中。

### 5. **\*\*海外事業\*\***:

- AMIVOICE THAI は現地のビジネス体制を再構築中で、売上は厳しい状況。
- つくばは固定客が多く、大きな動きはない。

6. **\*\*全体の業績\*\***:

- BSR1 が売上を牽引し、過去最高の売上を達成。
- BSR2 の赤字が小さく、全体として増益。

7. **\*\*貸借対照表\*\***:

- 総資産は 159 億 4,900 万円で過去最大。
- 借入金の返済や配当の影響でキャッシュフローに変動あり。

8. **\*\*データセンターの設置\*\***:

- 総投資額 50 億円、投資期間は最大 10 年。
- 音声認識ビジネスのデータ量増加と生成 AI への対応のため、データセンターを設置。

9. **\*\*配当と業績予想\*\***:

- 配当は未定、配当性向 30%を目安にしている。
- 売上高 70 億円、営業利益 14 億 7,000 万円を目指し、業績予想の修正は行わない。

全体として、既存事業の堅調な成長と新規ビジネスの進展により、過去最高の中間期業績を達成しました。

≪ 2. 事業展開の概要 ≫

≪ 3. 今後の事業展開 ≫

#### #### 事業展開の概要

- **過去最高の業績**: 売上高、営業利益、経常利益すべてで過去最高を達成。
- **売上高の分析**: BSR1、BSR2 のエンジンに分けて事業を展開。BSR1 は順調に売上を伸ばし、BSR2 は一部減少もあるが、全体では前年同期比 9.6% の増収。
- **営業利益**: BSR1 は堅調に伸びているが、SDX が不調。全体では前年同期比 6.3% の増益で過去最高。

#### #### 過去 7 年間の推移

- **増収増益の継続**: 特にコロナ禍以降、4 年連続で増収増益を達成。
- **ストック比率**: 医療を除けば良好な推移。BSR1 の VoXT や SDX、CTI が主要な成長ドライバー。

#### #### 市場とビジネスの実績

- **27 年間の市場開拓**: 創業当初は市場が皆無だったが、現在は 7 つの市場で事業を展開。特に医療とコールセンター事業が大きく成長。
- **API 開発キット**: 領域特化型のエンジンが高精度で、GAFA やマイクロソフトの汎用エンジンとは一線を画す。

#### #### クラウド型と据え置き型のエンジン

- **AmiVoice Cloud Platform**: クラウド型の音声認識エンジン。
- **ネイティブエンジン**: PC 上やオンプレミスで利用されるエンジン。販売パートナーと開発パートナーが重要な役割を果たす。

#### #### 前期の結果

- **CTI の成長**: AmiVoice Communication Suite が大手 SIer との連携で市場浸透。前年同期比 8.6% 増。
- **生成 AI の活用**: 生成 AI の高い能力を活用しつつ、企業独自のランゲージモデルを構築。

#### #### 生成 AI と LLM の活用

- **生成 AI の能力と課題**: アドバンスド・メディアの独自技術を活用したローカル型 AI の提供が強調されました。

- **\*\*新技術の紹介\*\***: AOI LLM for AmiVoice Communication Suite や AI Avatar AOI など。

#### #### VoXT 事業

- **\*\*ボイステキスティング事業\*\***: ユーザー数が増加し、ScribeAssist や ProVoXT を統合した VoXT One プラットフォームが高評価。

#### #### 医療事業部

- **\*\*AI 音声入力ソフト\*\***: AmiVoice Ex7 や iNote の導入により、医療現場での効率化が進んでいます。  
- **\*\*iNote の成長\*\***: コロナ禍でのベッドサイドでの利用が評価され、成長を見せています。

#### #### SDX (AmiVoice Cloud Platform)

- **\*\*ACP の成長\*\***: SalesBoost の概念が紹介されました。人材採用の増加により一時的に利益が減少しましたが、将来的な成長を見込んでいます。

#### #### BDC 本部

- **\*\*検査ソリューション (SIP) \*\***: 堅調に推移。ソリューション事業の構造改革とアプリサービスの開発が進行中。

#### #### 海外事業部

- **\*\*AmiVoice Cloud Platform の海外展開\*\***: パートナーシップを通じて日本市場にも影響を与えています。

#### #### THAI 事業

- **\*\*現状と取り組み\*\***: 現在苦戦中ですが、復活に向けた取り組みが進行中。

#### #### つくば事業

- **\*\*AISH の進展\*\***: AI Super Human の進展が見られ、今後の成長が期待されています。

#### #### 今後の事業展開

- **\*\*新たな日常を創る\*\***: 超音声認識 (BSR) から AISH の時代へ移行することを目指しています。

- **\*\*サステナビリティのプロデュース\*\***: 音声認識や AI を活用したアプリケーションの提供とスキルの伝授を通じて社会のサステナビリティをプロデュース。

#### #### HCI (Human Communication Integration)

- **\*\*ナチュラルコミュニケーションの実装\*\***: ADP (AmiVoice DX Platform) と AMX が重要な役割を果たす。

#### #### ADP と AMX の詳細

- **\*\*ADP\*\***: AmiVoice DX Platform の略で、文字起こしの VoXT One や AOI (AmiVoice Ontology Integrated AI Partner) を含む。
- **\*\*AOI\*\***: パーソナライズ音声プロンプトを特徴とし、特定の目的に特化した音声プロンプトを提供。

#### #### 具体的な製品と特許

- **\*\*VMPA (Voice Meeting Partner Assistant) \*\***: セールス支援に使える製品で、自然発話に対応し、1 ライセンス 3,300 円で提供。
- **\*\*エントリーアシストやオートメーションアシスト\*\***: データ収集や自動化支援の製品も開発中。
- **\*\*特許取得\*\***: パーソナライズと複数発話に関する特許を取得。

#### #### 未来のビジョン

- **\*\*売上目標\*\***: 100 億円、25 億円の売上目標を掲げ、新たな日常を創ることを目指す。
- **\*\*アミボイスの普及\*\***: 仕事に使うことが当たり前となる世界を構築する。

全体として、アドバンスド・メディアは生成 AI 技術の活用や新製品の導入により、各事業部での成長を目指しています。特に、医療分野や海外市場での展開が注目されており、今後の成長が期待されます。